

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 177号

平成29年1月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

内村鑑三「続一日一生」より (9)

秋の夕べ

秋が来た

涼しき心地よき秋が来た

ああ愛すべき秋よ

老が来た

静かなる黙示 (しめし) に富める老が来た

ああ楽しき老よ

この後に冬が来る

冷たき死と墓とが来る

しかる後に、復活の春が来る

しかして最後（いやはて）に、永久変わらざる

清き涼しき、神のパラダイスの夏が来る

ああ感謝に充てる生涯よ

9月1日

わたしはキリストにあって真実を語る。偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によって、わたしにこうあかしをしている。すなわち、わたしに大きな悲しみがあり、わたしの心に絶えざる痛みがある。実際、私の兄弟、肉による同族のためなら、わたしのこの身がのろわれて、キリストから離されてもいとわない。彼らはイスラエル人であって、子たる身分を授けられることも、栄光も、もろもろの契約も、律法を授けられることも、礼拝も、数々の約束も彼らのもの、また父祖たちも彼らのものであり、肉によればキリストもまた彼らから出られたのである。万物の上にあります神は、永遠にほむべきかな、アーメン。(ローマ書9・1-5)

私どもにとりましては、愛すべき名としては天上天下ただ二つあるのみであります。その一つはイエスでありまして、その他のものは日本であります。これを英語で申しますれば、その第1は Jesus でありまして、その第2は Japan であります。二つとも J の字をもって始まっておりますから、私はこれを称して Two J's すなわち二つのジェーの字と申します。イエス・キリストのためであります。日本国のためであります。私どもはこの二つの愛すべき名のために、私どもの生命をささげようと欲(おも)う者であります。

9月3日

そこでわたしは、あなたがたのところに再び悲しみをもって行くことはすまいと、決心したのである。もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませているその人以外に、だれがわたしを喜ばせてくれるのか。このような事を書いたのは、わたしが行く時、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から、悲しい思いをさせられたくないためである。わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからである。わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書き送った。それは、あなた方を悲しませるためではなく、あなた方に対してあふれるばかりにいただいている私の愛を、知ってもらうためである。
(コリント第2書2・1-4)

余はかつて聞けり、東洋諸邦に文通(correspondence)なるものなしと。文通とは、その文字のとおり単に報告の取りかわしをいうものにあらず。英語のコルレスポネンセスに反応の意あり。すなわち、われ彼を愛して彼われに応ずるに同一の愛をもってするの意なり。愛の反応これ文通の意なり。吾人は書簡をもって周囲の出来事を吾人の友人に通ぜんとせず。これ新聞紙のなすところなり。吾人は書簡によりて新知識を吾人の友人より得んとせず。これ書籍のなすところなり。吾人は書簡によりて吾人に対する友人の愛情を知らんことを欲す。愛心のなき所には書簡はあらざるなり。書簡は愛心のあふれて文字となりしものなり。もし世に愛の福音なるものあらば、これ書簡文を除いて他に有らざるべし。

9月5日

神の霊はわたしを造り、全能者の息はわたしを生かす。(ヨブ記
33・4)

環境にあらず、聖霊である。環境はいかに完全であるとも信者を作らない。これに対して聖霊は、最も不完全なる環境の中より信者を作る。不信の現代人は、彼らのいわゆるキリスト教的環境を供することによりて、機械的にキリスト信者を作りうらと思う。されども彼らがかくのごとくにして作りし信者は少しも信者ではない。信者の真似事である。あたかも彼らの製造所が産する織物の断片(きれはし)の如きものである。金と設備と教育の方法によりて信者はできない。同時に、神はその聖霊をもって、伝道学校以外において、多くの真の信者を作りたもうた。

霊はおのがままに吹く。なんじ、その声を聞けども、いずこより来たり、いずこへ行くを知らず。すべて霊によりて生まるる者はかくのごとし。(ヨハネ伝3・8)

とある。聖霊は環境のいかんにかかわらず信者を作る。そして今なお作りつつある。いわゆる影響、感化なるものは、キリスト信者を作るにあたって、そのなすところ、いたって僅少である。

9月6日

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなた方の求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知では到底はかり知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。(ピリピ書4・6-7)

たぶん祈禱にかかわる教訓にしてこれよりも完全なるものはあるまい。私はこれを最も常識にかなえる教えであるという。心配のことは大小にかかわらず神に告げよ、さらば平安なんじらに臨まんとするのである。なんじらの祈願はことごとく聞かるべしとはいわない。平安なんじらの心と思いを守らんという。かくして祈禱は祈禱以上に聞かるるのである。かつまた祈りは祈禱と願いと感謝であるという。祈禱は自己をむなしゅうして、神に頼る心の状態である。願いは祈願である。そしてこれに過去の恩恵に対する感謝を加う。かくして完全なる祈禱が成立する。

聞かる聞かれぬの問題でない。ただ神に告ぐるのである。知らずるのである。さらば人のすべて思うところに過ぐる平安はキリストにありて信者の心と思いとを守らんという。平安は心を占領して余念のこれを乱すこと無けんとのことである。

9月7日

初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について——このいのちが現われたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠の命は、父と共にいましたが、今や私たちに現れたものである——すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなた方にも告げ知らせる。(ヨハネ第1書1・1-3)

真理は聞いただけでは分らない。実行(実験)してみても初めて分かる。すべての真理においてそうである。ことに信仰の真理において、そうである。「まこと」は事であって言ではない。最も確かなる真理は手をもってふれたる真理である。聞くのみにして行わざる者は、終生真理を解し得ずして終る。カーライルいわく、produce, produce(生産せよ、生産せよ)と。生産せずして、少なくともまじめに生産せんと努力せずして、真理はわからない。おのが弱気を標榜して実行を避くる者は真理を解し得ないまでである。読書または聴講をもって真理把握の唯一の道となす者は、終生真理を把握し得ずして終る。イエスいいたまわく、「人もしわれをつかわしし者の旨に従わば(おこなわば)、この教えの神より出づるか、またおのれによりていうなるかを知るべし」(ヨハネ伝7・17)と。キリスト教を自己に証拠立つる唯一の道は、これをおこのうにある。

9月8日

あなたに選ばれ、あなたに近づけられて、あなたの大庭に住む人はさいわいである。われらはあなたの家、あなたの聖なる宮の恵みによって飽くことができる。(詩篇 65・4)

信仰は人を無限の神につなぐものである。しかして神は道德、知識、実力の本源であるがゆえに、彼に連なりて、人は能力の本源に連なるのである。ここにおいてか彼は規則をもっておのれを縛ることなくして道德を維持するを得、愛の泉をおのが心の中に発見して、しいてみずから努むることなくして生命の水を他に供給し得るに至る。しかして道德はおのずと彼よりわき出づるにとどまらず、彼の心霊は自由を得て、その結果として彼の知能までが著しく発達する。信仰は単に信仰にとどまらない。直ちに自由研究の精神として現われ、科学と哲学の発達を促す。殖産これがゆえに起こり、事業これがゆえに挙がる。信仰のつえをもって堅き心の岩をたたいて、その中よりすべての善きものは出で来たるのである。

9月13日

その時イエスは声をあげて言われた、「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。父よ、これはまことにみこころにかなった事でした。すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子を知る者は父のほかになく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません。」(マタイ伝 11・25-27)

神の教えであるキリスト教は、了解(わか)って了解る者ではない。

信じて了解る者である。了解らないから信ずるのである。了解れば信ずるの必要はない。そして了解ってしまって信ずる必要のなき宗教は、真の宗教でないから、了解る必要のないものである。宗教はもとこれ信ずべきものであって、了解るべきものではない。信ずればこそ、宗教に能力があるのである。キリスト教が神の教えである最も明らかなる証拠は、それが了解りそうで了解らないことにおいてある。その点において仏教は違う。仏教は了解る。ゆえに仏教徒は言う、仏教は宗教にあらずして哲学であると。それゆえに、仏教は解しがたしといえども、解し得ざるにあらず。されどもキリスト教は信ぜずしてとうてい了解らない。我(が)を祈り、わが罪を言い表し、わが無知、無能、不善を認めて、神の前にへりくだりて初めてキリスト教の何たるかがわかる。キリスト教は傲然としてこれを

わがものとなすことはできない。嬰子（あかご）のごとき者となりて
神の前に平伏して、彼に教えられて、その奥義に達することができる。

9月28日

主はシオンから大声で叫び、エルサレムから声を出される。天も地もふるい動く。しかし主はその民の避け所、イスラエルの人々のとりでである。(ヨエル書3・16)

キリスト教は歴史的宗教である。すなわち、かつて有ったことを信ずる宗教である。人が考え出した事を信ずる宗教ではない。その点において、仏教とキリスト教との間に根本的相違がある。仏教は釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)一人の思想教訓に始まっているが、キリスト教はアブラハム以来キリストまで、少なくとも4千年間の生ける歴史に根ざしている。生ける神は、言葉をもってするよりも事実をもって教えたもう。理想を説かずして実例を示したもう。アブラハムの伝記が、すべて神に導かるる者の生涯の模範である。人類はイスラエルの民が救われしように救わるべしとのことである。かくて神は地理と歴史をもって、聖書を書きたもうたのである。それがゆえに聖書は貴く、世界無二の書であるのである。

9月29日

ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、私たちに新たに生まれさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。あなたがたは、終わりの時に啓示されるべき救にあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。(ペテロ第1書1・3-5)

誠実なるイエスよ、われらも各自その天職を教えられんことを。

われらもなんじにならい、聖書において歴史の真義を解し、われら各自のこの世における本務を悟り、また時代にかんがみ、境遇に照らし見て、なんじが理想的ユダヤ人として千九百年の昔、なんじの聖職を尽くしたまいしごとく、われらも理想的日本人として、二十世紀の今日、われらの本分に忠実ならんことを。……されどもイエスよ、われらにまたわれらのために備えられし天職あり。われらはこれに忠実なれば足れり。われらは光明をなんじに仰ぐ者、もちろんなんじの義の太陽なるごとく、自身光を放ち得る者にあらず。されどもイエスよ、われら、なんじの光に照らされて、われらも光輝を放ち得るなり。なんじにたよるべき我らは、この国この民に汝の生命を分かち得るなり。なんじ願わくはわれらを恵みて、われらすべてをして小キリストたるを得さしめよ。